【生活関連サービス業用/大地震版】
初めてでも簡単！ＢＣＰ策定シート

年　月　日 策定・改訂

(解説)初めてでも簡単！ＢＣＰ策定シートは、山形県内の中小企業、小規模事業者のBCPの取り組みの第一歩を後押し、分かりやすく簡単にBCPを策定いただく意図で作成しました。

1．基本方針

大地震発生時には、以下の基本方針に則り対応する。

1	店内のお客様・社員（役員・従業員）の人命を守る
2	重要業務である理容業を継続または早期に再開する
3	地域社会への貢献する

2．被害想定

想定地震　〇〇断層帯による地震、想定震度　震度６強

社会インフラの中断（電力・通信:3日間、交通・その他:2週間）、店（建物）半壊

※新耐震基準を満たしていない建物の場合は、全壊となる想定も必要です。

3．対応責任者

統括責任者	全社的な意思決定を行い、対応全体を統括する。
店長　（代行者　　）	
本社機能維持担当	安否確認や安全確保等、本社機能の維持に関する実務を指揮する。
店長　（代行者　　）	
事業継続担当	重要事業の継続に関する実務を指揮する。
店長　（代行者　　）	

4．重要業務、目標復旧時間

重要業務	理髪業務
目標復旧時間	１週間

5．対応手順

⑴大地震発生直後（直後から可能な限り速やかに）

①避難

基準	建物の損壊、火災の発生、津波の危険
避難場所	屋外駐車場（津波の危険がある場合は津波避難経路を使って高台の〇〇公民館へ）

②救助・負傷者対応

救助・応急処置道具の所在	1階奥の棚
救急搬送先①	〇〇総合病院（TEL：　123-4444　）
救急搬送先②	〇〇第一病院（TEL：　123-5555　）

③安否確認

基準	〇〇市における震度５強以上の地震の発生	確認方法①	目視
対象者	従業員（パート・アルバイトを含む） 総計　2人（2020　年　8　月現在）	確認方法②	休暇中の場合、携帯メール
集計担当者	店長	確認方法③	

※夜間・休日に災害が発生した場合の対応

参集メンバーは自身が安全に移動できることが確認でき次第（火災等が発生していない、夜間でない　等）、定められた場所に参集し、災害対応を行う。

参集メンバー	店長
参集場所	店　代替場所：店長自宅　または避難所

⑵初動対応フェーズ（直後から24時間以内）

統括責任者 ― 本社機能維持担当

＜メンバー＞
・店長

①状況確認

確認対象	担当者（部門）
役員・従業員（含む家族）の安否	〇〇
建物・設備の状況	〇〇
その他、理容に必要な設備、イス等の稼働状況	〇〇
お客様のケガ等の状況	〇〇
その他	
その他	

②帰宅許可

基準	帰宅までのルートの安全が確認されており、自治体から帰宅抑制要請が出されていないこと
対象者	全員（帰宅ルートの安全が確認できない者は除く）
留意点	・帰宅時に水、食料を持たせる。 ・帰宅後、安否状況を報告させる

③備蓄品の状況

品名	数量	品名	数量
ヘルメット（お客様）	4個	ヘルメット（従業員）	2個
飲料水（お客様）	36ﾘｯﾄﾙ	飲料水（従業員）	18ﾘｯﾄﾙ
食料（お客様）	36食	食料（従業員）	18食
トイレットペーパー（お客様）	4個	トイレットペーパー（従業員）	2個
簡易トイレ（お客様）	12回分	簡易トイレ（従業員）	6回分
懐中電灯	4台	乾電池（単1）	15本
救急箱	1箱	非常用バッテリー	1台
携帯ラジオ	1台	毛布	4枚
電池式ランタン	1台	ブルーシート	1式

※飲料水（3L/日・人）と食料は最低3日～7日分を準備します。

⑶事業継続フェーズ

統括責任者 ― 事業継続担当

＜メンバー＞
・店長
・リーダー

①重要業務の継続

対応戦略	しばらくは休業。長期化する場合は組合等を通して避難所等別の場所で支援活動などにより再開。	資源の脆弱性（ボトルネック）	はさみ、くし、イス、カリフ（カッティングクロス）、水、電気、照明
対応手順	理髪業の営業		外部関係者・公的支援
当面の対応	・お客様、店員等の安全確保、負傷者対応 ・建物・設備の被害状況確認、状況によっては避難（新耐震基準を満たしていない建物の場合は即避難） ・ガラスの飛散防止フィルム等対策をしていない場合は、ガラスの破片に注意する。 ・天井外エアコン、パーマ機器等の落下に注意する。 ・営業は一時休止。		・近隣の同業者と連絡を取り合い、相互に支援・応援など助け合う。 ・山形県理容生活衛生同業組合を通して、非被災地からの支援を要請する。（過去の例では、被災地には電動イスやハサミ・剃刀などの救援物資が寄せられた） ・建物被災（全壊・半倒壊など）の場合は、市町村から罹災証明を受ける。 ・道具等の卸業者と連絡を取り合い、被災により必要な道具を取り寄せる。
長期化した場合	・負債の返済額等に応じた、営業再開目標の時間を計算して目標を決めておく（上記　4.目標復旧時間）。これを超えそうな場合は、別の場所で営業を再開することを検討する（例　避難所での利用サービスなど）		・避難所への出張サービス、老人介護施設への出張サービスなどでのニーズを山形県理容生活衛生同業組合や市町村等に相談するなどして、通常の理髪店営業以外の収益を得る方法を検討する。

6．資金調達

必要な資金	概要	予想資金（3ヵ月）
(A) 経営維持費用	自身の生活費・従業員への給与の支払い	200　万円
	買掛金の支払い	万円
	金融機関からの借入金の返済	万円
	その他	万円
(B) 災害復旧費	被災建物・設備の復旧	3,000　万円
	その他	万円

調達可能な資金	概要	予想資金（3ヵ月）
(C) 利用可能な手元資金（現在の現預金）		500　万円
(D) 回収可能な売掛金		万円
(E)公的機関の特例貸付	中小機構の特例災害時貸付を想定	800　万円
(F)地震保険	〇〇損害保険会社の地震保険	最大2,200　万円

必要な資金	(A) ＋ (B)	3,200　万円
調達可能な資金	(C) ＋ (D) ＋ (E)　(F)	3,500　万円

7．事前準備

⑴大地震発生直後	ﾁｪｯｸ	できていない場合
避難ルートマップの作成	✓	までに対応する
建物の耐震対策（新耐震基準クリア）		20XX年XX月末までに対応する
ガラスの飛散防止フィルム		20XX年XX月末までに対応する
パーマ等宙づり機器の安全対策		20XX年XX月末までに対応する

⑵初動対応フェーズ	ﾁｪｯｸ	できていない場合
「顧客リスト」の整備		20XX年XX月末までに対応する
「調達先等リスト」の整備		20XX年XX月末までに対応する
備蓄品の整備		20XX年XX月末までに対応する
山形県理容生活衛生同業組合の連絡先		20XX年XX月末までに対応する

⑶事業継続フェーズ	ﾁｪｯｸ	できていない場合
照明用・ドライヤー用等のバッテリー（または小型発電機）の購入		20XX年XX月末までに対応する
カリフ、はさみ、くし等の道具の在庫量を増やす		20XX年XX月末までに対応する
道具卸業者の二重購買化（カリフ・はさみ等）		20XX年XX月末までに対応する
		までに対応する

（参考資料）BCP策定シート

年　　月　　日 策定・改訂

(解説)初めてでも簡単！ＢＣＰ策定シートは、山形県内の中小企業、小規模事業者のBCPの取り組みの第一歩を後押し、分かりやすく簡単にBCPを策定いただく意図で作成しました。

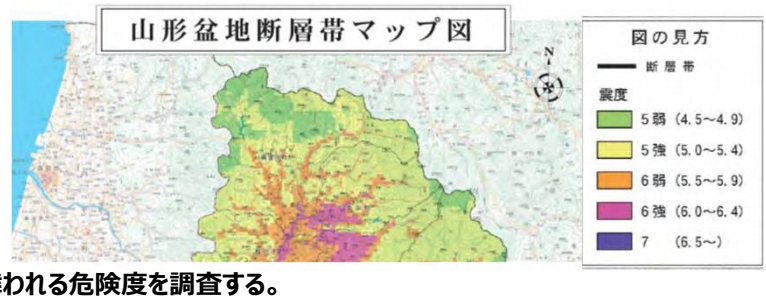
Ⅰ．本社・事業所の被害想定

No	種別	拠点名称	拠点住所	避難場所	地震ハザードマップでの震度(注１)	30年震度6弱以上の揺れに見舞われる確率(注２)
1	本社	○○本社	○○県○○市○○１－２－３○○ビル○階	○○小学校	6強	8.5%
2	営業所	○○営業所	○○県○○市○○４－５－６○○ビル○階	○○公園	6強	10.2%
3	営業所	○○営業所	○○県○○市○○７－８－９○○ビル○階	○○公園	5弱	0.4%
4	営業所	○○営業所	○○県○○市○○７－８－９○○ビル○階	○○公園	6強	9.2%
5	営業所	○○営業所	○○県○○市○○７－８－９○○ビル○階	○○小学校	5強	5.4%
6	工場	○○工場	○○県○○市○○１－２－３○○	○○小学校	6強	12.2%
7	工場	○○工場	○○県○○市○○１－２－３○○	○○小学校	5強	6.5%

注１：地震ハザードマップから最大震度を調査する。

① 山形県内の地震ハザードマップにアクセスする。
https://www.pref.yamagata.jp/ou/kendoseibi/180025/taisin/seismicmap.html

② 山形県内において地震が予測されている「山形盆地断層帯」、「長井盆地西縁断層帯」及び「庄内平野東縁断層帯」の地震ハザードマップを確認し、各拠点の震度を上表に記載する。



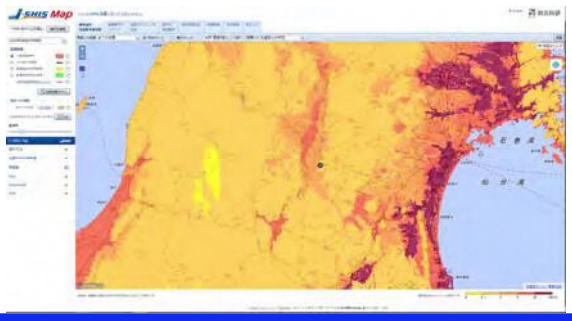
注２：J-SHIS地震ハザードステーションから拠点が大きな地震動に見舞われる危険度を調査する。

① 防災科研のJ-SHIS地震ハザードステーションにアクセスする。
http://www.j-shis.bosai.go.jp/map/

② マップ上部のタブを「30年震度6弱以上の揺れに見舞われる確率の分布図」に変更、ページ左上の検索欄に各拠点の住所を入力し、「場所を検索」を選択する。

③ 「検索結果」のウィンドウが表示されるので、拠点の住所をダブルクリック、地図上に表示される青点が拠点場所であることを確認し、青点をダブルクリックする。

④ 「拠点情報　確率論的地震動予測地図」のウィンドウが表示されるので、「震度6弱以上となる確率」の数値を上表に記載する。各拠点について②から実施する。



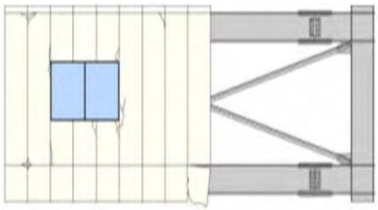
Ⅱ．本社・事業所の耐震補強

１．基本的な耐震対策

① 建屋の堅牢性確保のための対策　（耐震診断～耐震対策）
＊S56年の新耐震基準を満たしていること。そうでない場合は耐震補強工事が必要。

② ガラス飛散防止、オフィス什器備品・ＰＣ等転倒防止のための対策

③ 各種機械・設備（精密機器、自動倉庫、商品棚等）の固定化などの耐震強化対策

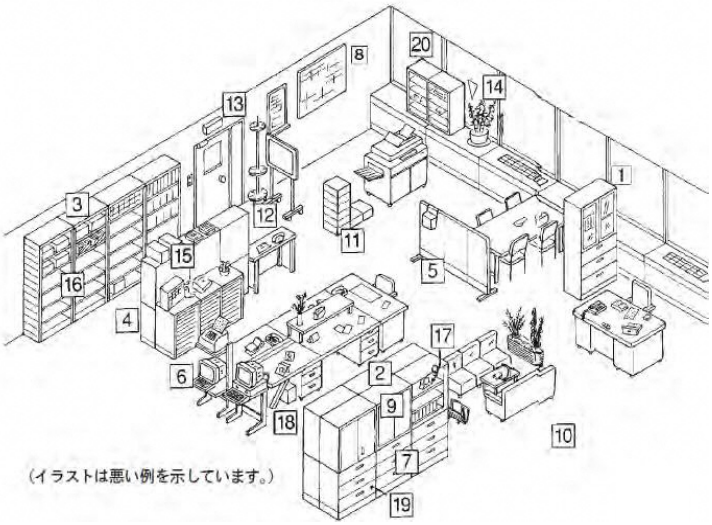


壁のブレース補強の例

各種機械・設備の固定の例

２．オフィスでの減災対策例

オフィス内の転倒・落下防止対策チェックリストを活用して確認する。



出典：家具類の転倒・落下防止対策ハンドブック（東京消防庁）

	項　目	チェック
1	背の高い家具を単独で置いていない。	
2	安定の悪い家具は、背合わせに連結している。	
3	壁面収納は、壁・床に固定している。	
4	二股重ね家具は、上下連結している。	
5	ローパーテーションは、転倒しにくい「コの字型」「Ｈ型」のレイアウトにしている。	
6	ＯＡ機器は、落下防止対策をしている。	
7	引出し、扉の開き防止対策をしている。	
8	時計、額縁、掲示板等は、落下しないように固定している。	
9	ガラスには、飛散防止フィルムを貼っている。	
10	床につまずき易い障害物や凸凹はない。	
11	避難路に、物を置いていない。	
12	避難路に、倒れやすいものはない。	
13	避難出口は、見えやすい。	
14	非常用進入口に、障害物はない。	
15	家具類の天板上に、物を置いていない。	
16	収納物がはみ出したり、重心が高くなっていない。	
17	危険な収納物（薬品、可燃物等）がない。	
18	デスクの下に、物を置いていない。	
19	引出し、扉は必ず閉めている。	
20	ガラス窓の前に、倒れやすいものを置いていない。	

Ⅲ．参考資料

①	山形県地域防災計画：山形県の防災に関する総合的な計画。 https://www100.pref.yamagata.jp/020072/bosai/kochibou/bousaijouhou/bousaikaigi/bousaikeikaku.html	②	こちら防災やまがた！：山形県の地震や大雨などの災害情報や防災情報が幅広く紹介 https://www.pref.yamagata.jp/bosai/